

全国で2例目の古代の『女子群像』を発見

平成28年12月15日
鳥取県埋蔵文化財センター

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う発掘調査で、古代の『女子群像』を描いた板絵を発見した。国内では国宝「高松塚古墳壁画」（奈良県）、海外では、朝鮮半島の水山里古墳壁画（北朝鮮南浦市）に類例が知られるのみ。古代の中央と地方、さらには海外文化との関係を知る上で大変重要な発見である。

1 出土遺跡 青谷横木遺跡（あおやよこぎいせき、鳥取市青谷町）

2 発掘調査について

(1) 調査の委託者 国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所

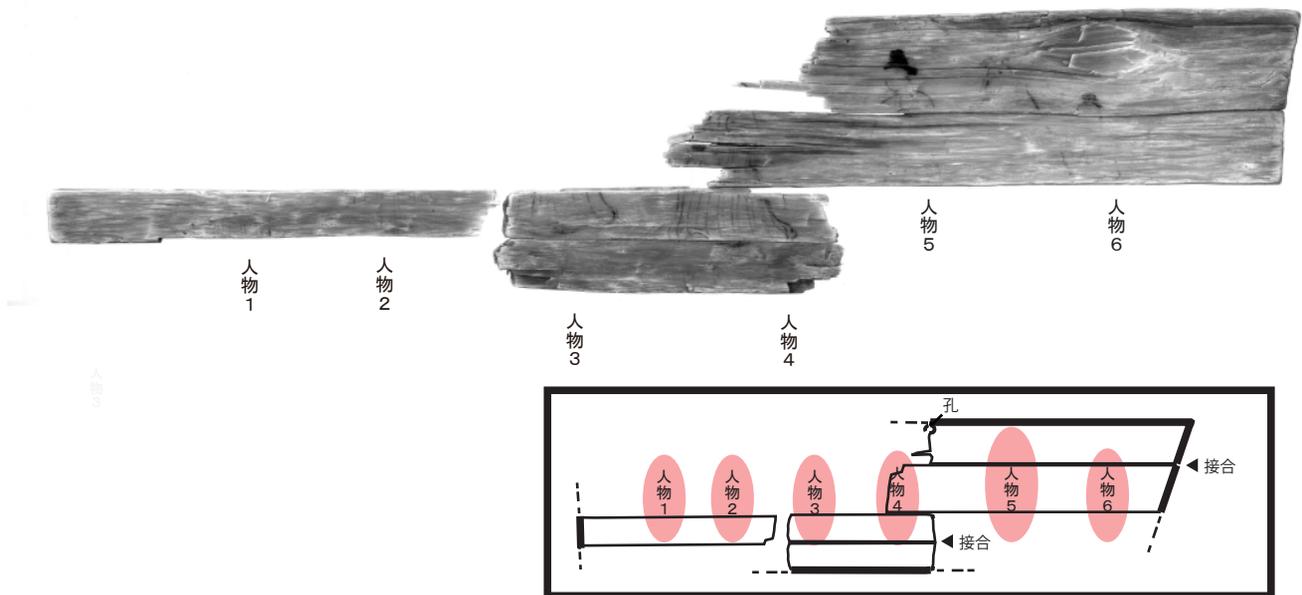
(2) 調査主体 鳥取県埋蔵文化財センター

(3) 調査期間 平成25年4月から平成27年12月

(4) 出土地区・時期 P9区 平成27年9月19日

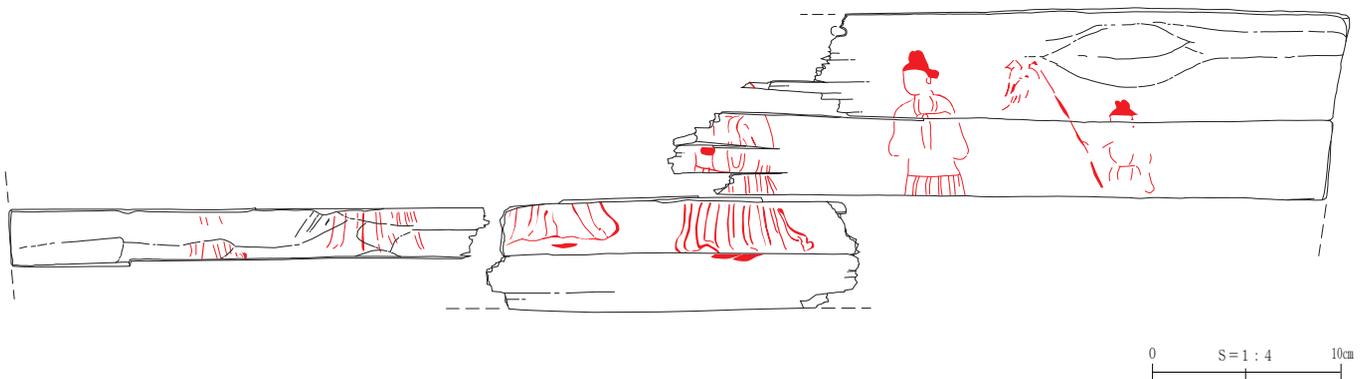
3 青谷横木遺跡出土板絵

(1) 赤外線画像（写真撮影：奈良文化財研究所）



法量：復元長 70.5 cm前後、幅 15.5 cm前後、厚さ 6 mm

(2) (1) から起こした実測図



4 板絵について

- (1) 7世紀末～8世紀初頭築造の道路遺構（古代の官道「山陰道」）と10世紀代につくられたと考える条里遺構の交点にあたる箇所から出土。
- (2) 少なくとも6名が向かって右から左へゆっくり歩を進める姿が確認できる。裳（も）といわれるスカートのような衣装や結い上げた髷（まげ）状の髪形、沓（くつ）や扠子（ほっす＝蠅払い）らしきものが確認でき、国宝「高松塚古墳壁画」とほぼ同じ時期（7世紀末～8世紀初頭）のものと考えられる。「山陰道」構築の時期とも齟齬はない。
- (3) 墨書により描かれ、現時点での肉眼観察では彩色は確認できない。
- (4) 古代の『女子群像』としては、国内では国宝「高松塚古墳壁画」に次いで2例目の発見で、板絵に描かれたものとしては国内初の出土。先導者と女主人、それに従う侍女といったモチーフは、朝鮮半島の水山里古墳壁画（5世紀後半）と類似。



写真（左）古代山陰道（P11区より東）

写真（右）P9区全景（南から）

…板絵出土位置

5 『女子群像』板絵出土の意義

- (1) 人物群像は、中国や朝鮮半島（高句麗）の墓室に描かれる画題で、墓主の生前の姿を再現した行列図と考えられ、広く古代東アジアにおける墓葬文化の交流を考える上で重要な資料である。
- (2) 墓葬として人物群像を描くという、外来の文化に素養のある人物が関与したと考えられる。類例からすると、渡来系の豪族、もしくは渡来文化にゆかりの深い有力者層がこの地に存在していた可能性が高い。
- (3) 青谷横木遺跡では古代山陰道や条里遺構が確認され、木簡や木製祭祀具も数多く見つかった。今回の発見により、我が国の飛鳥時代から平安時代を代表する遺跡として評価が高まった。

6 板絵の展示

平成28年12月17日（土）、9時から16時に、当埋蔵文化財センターで速報公開を開催（入場無料）。